

教育委員会だより

令和7年度 全国学力・学習状況調査 の結果について

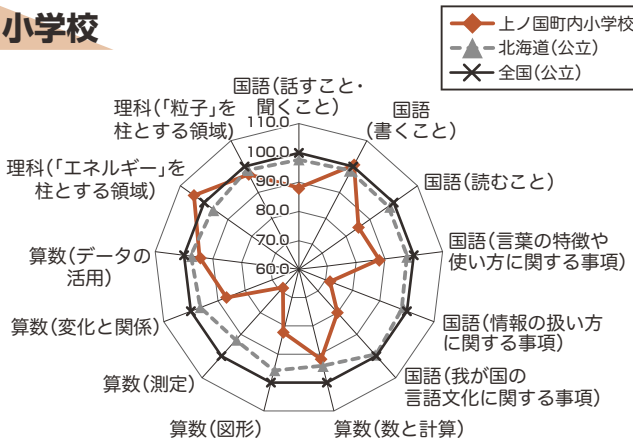
今年4月に町内の小学校6年生（20名）および中学校3年生（31名）を対象に行われた、全国学力・学習状況調査の概要をお知らせします。
今回の学力調査は小学校6年生の「国語・算数・理科」、中学校3年生の「国語・数学・理科」の3教科で行われました。

1. 調査の目的について

本調査は児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる取組を継続して行うことで、検証改善サイクルを確立することを目的としています。本調査の結果は児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、教育活動の一側面であることに留意が必要です。

2. 調査結果について

小学校



国語

全体としては全国・全道の正答率と比較して低い結果となっています。領域別では「書くこと」の領域が全国・全道の正答率を上回る一方、「情報の扱い方に関する事項」や「読むこと」など、5領域で全国・全道の正答率を下回っています。

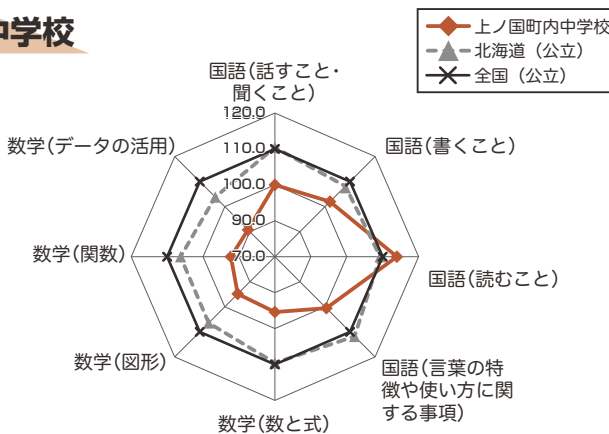
算数

全体としては全国・全道の正答率と比較して低い結果となっています。領域別では「測定」や「図形」など、全5領域で全国・全道の正答率を下回っています。

理科

全体としては全国・全道の正答率と比較してやや高い結果となっています。領域別では全ての領域（2領域）で全国・全道の正答率を上回っています。

中学校



国語

全体としては全国・全道の正答率と比較してやや低い結果となっています。領域別では「読むこと」の領域が全国・全道の正答率を上回る一方、「話すこと・聞くこと」など、3領域で全国・全道の正答率を下回っています。

数学

全体としては全国・全道の正答率と比較して低い結果となっています。領域別では「データの活用」など、全4領域で全国・全道の正答率を下回っています。

理科

調査方法が異なるためにレーダーチャートにできませんが、全国・全道の正答率と比較してやや下回る結果となっています。

3. 成果と課題について

成果

- 小学校理科、小学校国語の「書くこと」領域および中学校国語の「読むこと」領域が全国・全道の正答率を上回るなど、各学校における学力向上の取組が着実に実を結んでいます。
- 児童・生徒質問では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに対して、ほぼ100%の児童生徒が肯定的に回答するなど、思いやりの心や社会貢献への意識をもつ児童生徒の割合がとても高い状況にあります。

課題

- 国語や算数（数学）が全体として全国・全道の正答率と比較して低い結果となったのは、児童・生徒質問において、「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という問いに、全国・全道と比較して1時間未満と回答している割合が高く、授業以外の学習時間が短いことが要因の一つと考えられます。

4. 学力向上の取組について

各学校においては「主体的対話的で深い学び」に向けた授業改善を進めると共に、一人一台端末を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の具現化に努めます。また、調査問題やチャレンジテストなどの効果的な活用を進めると共に、習熟度別学習や少人数学習、TT指導などにより個に応じた指導支援の充実に努めます。保・小・中・高連携の要である「学びの共同体」において、子どもたちの交流や授業実践交流を積極的に進めると共に、とりわけ小・中学校では、家庭学習の習慣化などの共通課題の克服に向けて取り組んでいきます。

